

最終更新日： 2024年4月4日

授業科目名 (講義題目)	生産管理			開講学期	前期
				曜日時限	火曜 I 限
				単位数	2
担当教員名	目代 武史	講義コード	科目区分	対象学生	
		24176003	選択	1年生 / 2年生	
開講予定日	①4/9 ②4/16 ③4/23 ④5/7 ⑤5/14 ⑥5/21 ⑦5/28 ⑧6/4 ⑨6/11 ⑩6/18 ⑪7/2 ⑫7/9 ⑬7/16 ⑭7/23 ⑮7/30				
履修条件	特になし	キーワード	良い流れづくり、品質、コスト、納期、柔軟性、バリュー・ストリーム・マップ (VSM)		
全体の教育目標	日本のものづくりの基盤をなす考え方、仕組み、管理ツール、作業・管理組織の理解	個別の学習目業	<ul style="list-style-type: none"> 生産の良い流れの理解 流れの分析ツールの習得 生産管理の背景にある考え方や前提条件の理解 		

授業の概要	<p>生産管理の役割は、生産の良い流れを設計し、維持し、改善することにある。本講義では、「流れづくり」という観点から、(1) 生産管理の全体像を理解するとともに、(2) 流れを分析するためのツールの習得、(3) 流れを改善するための考え方や方法論について学習する。</p> <p>具体的には、トヨタ生産方式を源流とするリーン生産方式の考え方に基づき、品質 (Quality)、コスト (Cost)、納期 (Delivery) の維持・改善とともに、生産の柔軟性 (Flexibility) の向上をいかに図っていくかを学んでいく。また、生産の流れを分析する手法として、バリュー・ストリーム・マップ (VSM、トヨタでは「ものと情報の流れ図」として知られる) を紹介し、VSMを用いた生産改善について学ぶ。さらに、今後の生産管理の在り方を考えるために、日本のものづくりが拠って立つ前提条件である生産組織や労務管理の特徴、情報技術の影響についても補足的にとりあげ理解を深める。</p>				
授業の最新情報 案内方法	<ul style="list-style-type: none"> 九州大学Moodle QBSインフォメーションボード (website) 				
授業形態	<ul style="list-style-type: none"> 講義・演習 グループワーク ディスカッション 	使用する教材等	<ul style="list-style-type: none"> テキスト (紙媒体) スライド資料 (電子媒体) 板書 映像・音声資料 		
授業の進め方	<p>教科書を用いた講義と、生産管理の課題に取り組むワークショップを併用する。また、受講者に教科書や参考文献などのまとめ・考察を発表してもらう場合もある。</p> <p>※講義内容は、受講者と相談のうえ、一部変更する場合があります。</p> <p>※本講義の受講を検討している人は、必ず初回のガイダンスに参加してください。</p>				

<p>教科書及び 参考図書</p>	<p>◎受講前に受講者が入手する必要がある資料 ○受講開始後に必要となる可能性がある資料 ●知識を拡げるために読んだ方がよい資料</p> <p>【教科書】 ◎藤本隆宏監修、一般社団法人ものづくり改善ネットワーク編（2017）『ものづくり改善入門』中央経済社、2,400円＋税</p> <p>【参考図書】 ○E・M・ゴールドラット、J・コックス（2001）『ザ・ゴール：企業の究極の目的とは何か』ダイヤモンド社、1,600円＋税 ○M・ローザー（2016）『トヨタのカタ：驚異の業績を支える思考と行動のルーティン』日経BP社、2,800円＋税 ●藤本隆宏（2001）『生産マネジメント入門 I（生産システム編）』日本経済新聞社、2,800円＋税 ●藤本隆宏（2017）『現場から見上げる企業戦略論：デジタル時代にも日本に勝機はある』角川新書、920円＋税 ●大野耐一（1978）『トヨタ生産方式：脱規模の経営をめざして』ダイヤモンド社、1,400円＋税 ●木村哲也（2018）『Small Factory 4.0：第四次「町工場」革命を起こせ！』三恵社 ●木村哲也（2024）『付加価値ファースト：常識を壊す旭鉄工の経営』技術評論社</p>
<p>試験・成績 評価の方法等</p>	<p>小レポートの提出 30% クラスでの発表・質疑 40% 最終レポート&発表 30%</p>